

令和3(2021)年度

日本特別活動学会 第8回 実践事例募集事業

## 推奨実践事例

事例番号 8-3

### 話し合い活動の基盤形成を目指した朝の会の実践 ～話型と相互指名を活用した「プレゼンタイム」～

(京都府)舞鶴市立大浦小学校

加藤 彩香(かとう あやか)

実践テーマ	話し合い活動の基盤形成を目指した朝の会の実践 ～話型と相互指名を活用した「プレゼンタイム」～
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、 )
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p>本学級の児童(8名)を5年生から6年生の2年間担任した。担任当初は、真面目で何事にも一生懸命に取り組める児童が多く、また、話を聞く時は、相手の方に体を向けて最後まで聞こうとする姿勢は感じられた。その一方で、自分の思いや考えを発信できる児童が学級の中で偏ったり、発言しても相手に声や内容が届きにくかったりする状況があり、指導すべき課題があると考えた。</p> <p>そこで、児童の自己表現力を高める取組を行い、児童が主体的に自分の言葉で考えを伝えたり、他者の考えを聞いて共に学び合っていたりする活動をとおして、学級集団づくりと学習の基盤形成を図りたいと考えた。児童が話し合う力を高める場として、毎日の授業はもちろん、「朝の会」の時間を学びの場として重視した。一日のスタートとなる大切な時間であることや、短時間でも毎日指導を積み重ねられる貴重な時間でもあることから、話し合い活動の基盤形成を図れると考え、2年間にわたり継続的に取り組んだ。</p> <p>この実践事例では、児童の話す力と聞く力を高め、共に学び合い、高め合う集団づくりに向けて実践したことについて、朝の会の時間を中心に報告する。</p>
実践の時期	令和2年4月～令和4年3月

## 話し合い活動の基盤形成を目指した朝の会の実践 ～話し型と相互指名を活用した「プレゼンタイム」～

### 1 問題と目的

本校は小規模校であり、5年から6年の2年間を担当した本学級の児童数は8名である。担任当初は「話す力」に課題があり、発言する児童が偏ったり、発言しても相手に声や内容が届きにくかったりする状況があった。そこで朝の会でのプレゼンテーションの指導を通して「話し合い活動」の基盤形成を図ろうと考えた。朝の会は学習指導要領上に明確な位置づけはないが、学級指導においては一日のスタートとなる大切な時間である。また、短時間でも毎日指導を積み重ねられる貴重な時間でもあることから、継続的な指導によって話す力と聞く力の育成が可能となると考えた。特に「聞き手を意識した話し方」や「話し手と聞き手の対話」が生まれる感想交流のスタイル等、はぐくみたい力を明確にした指導を行うことで、話し合い活動の基盤が形成され、特別活動さらには各教科指導にも生きてくると考えた。

### 2 実践内容

5年次は「スピーチタイム」、6年次は「プレゼンタイム」と題して、朝の会で毎日15分（発表3分、感想交流10分、発表者の省察及び担任からの評価2分）を設定した。輪番で1人がプレゼンテーション（ICTのスライド資料も使用）を行い、その後、聞き手が相互指名で感想を交流することを基本とした。その際、発表する時に大切なことを話し合わせたり、モデルとなるプレゼンテーション動画を参考にさせたりしながら、「学級で目指したいプレゼンテーションのポイント22項目【表1】」を決め、これを意識しながら、発表内容と資料作成（家庭学習課題の一つ）を行った。話し手は、発表前に「今日は、特に何を大切に伝えて伝えるのか」という目当てをもたせ、発表後には、感想交流による他者評価や教師による評価とともに「今日の伝え方で良かった所や改善点は何だったのか」「次回は何を頑張りたいのか」という自己評価による省察を促し、PDCAサイクルで循環させることによって自己効力感の向上を図った。

また、本実践において特に重視したことは感想交流のスタイルである。前述のとおり5年次は、他者の意見につなげて発言するという学級全体での横のつながりが弱く、教師－児童、児童－児童の単発の応答に陥りやすかったことから、児童同士が対話を通してつながったり、そこから考えを広げたりするための工夫が必要であった。そこで、発表者が話し終えた時や聞き手が自分の感想を発言した後、「皆さんは、〇〇についてどうですか？」という話し型を添えてから、他の児童を指名することをプレゼンタイムのスタイルとして感想交流の活性化を図った。その結果、話し型と相互指名により他者の意見を引き出すループが形成されることで、それまで1対1の単発に終わっていた応答が、学級全体で対話する相互コミュニケーションの活動へと少しずつ進化を遂げることができた。

【表1】児童が考えた「学級で目指したいプレゼンテーションのポイント22項目」

<p>&lt;伝え方&gt;</p> <p>①伝えたいことは強く言う ②間をとって話す ③構成を立てる（結論から話す）                  ④聞き手に問いかける ⑤成功例と失敗例を伝える ⑥大切な言葉を短く話す                  ⑦自分の体験を入れる ⑧目線（聞き手に視線を合わせる）⑨伝えたい言葉をくり返す                  ⑩ジェスチャーを入れる ⑪聞き手の思いを代弁する</p> <p>&lt;資料&gt;</p> <p>⑫1ページ1メッセージ（一文を短くする） ⑬資料を比べる                  ⑭言葉では分かりにくいことを図や写真で示す（足りない部分がどこかを明確にする）                  ⑮数字を使う ⑯強調したいことは色を変える ⑰言葉を上手に使う（上手な遊び心）                  ⑱アニメーションを入れる</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <p>⑲みんなの興味がありそうな話題 ⑳これまでにでていない新たな話題                  ㉑より細かく詳しく伝える（突き詰める） ㉒時事ネタ</p>
--

### 3 児童の実態把握

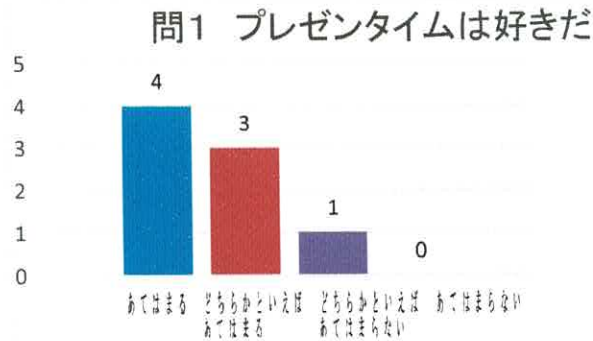
(1) 調査目的：「プレゼンタイム」に関する児童の意識を探り、指導に活用する。

(2) 調査方法：

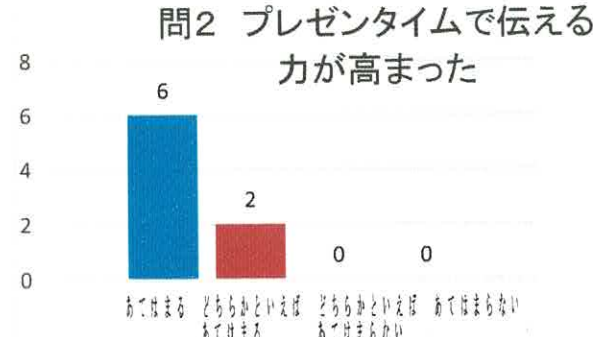
○タブレット端末によるアンケート調査

○調査日：2022年1月 ○調査対象：6年生児童8名（男子4名、女子4名）

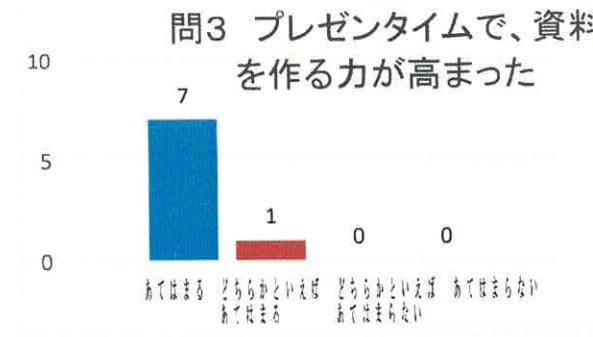
(3) 結果と考察



【問1の考察】ほとんどの児童が肯定的な回答をしている。その理由として、「みんなの意見が聞けるのが好きだから。」「みんなと意見を交流できるから。」「人それぞれ意見が知れるから。」「自分ができるところまでできるから。」「と、これに力を伸ばしていきたい意欲も感じていることと考えると、多くの児童が満足度を感じている。」「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童は、「自分と似た興味を持つ人がいないから、細かいことを話し合えない。」「という理由だった。より深まりのある話合いをどう広げていくか、今後にも研究は必要だと感じた。

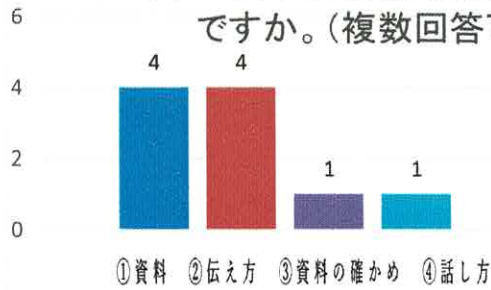


【問2の考察】8名全員が、伝える力が高まったと実感していた。その理由として、「4年生以来、プレゼンタイムを始めて言えるようになったから。」「これまで自分の言葉で伝えられるようになったから。」「伝えたい内容も広がったし、前より自信がなくなったから。」「など、日々の少しずつの積み重ねが、児童の自信につながっていることが感じられた。



【問3の考察】8名全員が肯定的な回答をしている。ほとんどの児童が自信を持った。その理由として、「資料やイラストなどを効果的に使うようになったり、アニメーションなどもできたりするようになったから。」「よりよい資料を作りたいから。」「タブレットを使うようになったから。」「など、今年度一人一台のタブレットが導入されたことが、児童の意欲や伝え方の充実や得られる満足度が高まったと考えられる。

問4 高まったと思う力はなに  
ですか。(複数回答可)

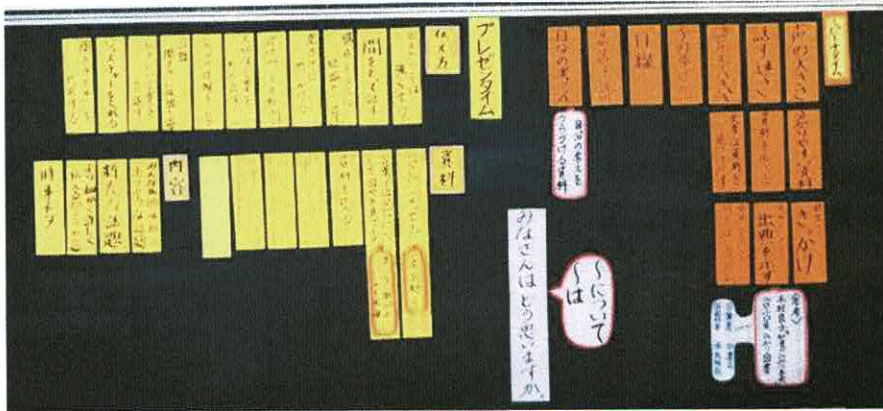


【問4の考察】  
児童が高まったと実感している力として、①資料作り、②分かりやすく伝える力、③資料が本当か確かめる力、④聞き手を意識した話し方(声の大きさ)があげられた。どれも、学級みんなで考え、出し合った目指したい力である。毎日の継続の大切さももちろんであるが、身に付けたい力を明確に持ったり、ふり返ったりする活動の繰り返しも力を高めていく上で大切だと感じる。

4 まとめ

2年間の実践をとおして、児童の自己効力感が高まったと感じる。当初は意見交流で挙手ができなかった児童や、自分の考えを伝えることができなかった児童も、今では自信を持って話し合いに参加する様子が見られる。また、相互に意見を交流する中で、相手の考えを尊重しながら聞く力が高まったり、自分と異なる考えや見方にふれる魅力も感じられるようになったりした。朝の会だけでなく、学級活動や児童会活動、さらには教科学習においても自分の考えを積極的に伝えようとする姿や、友達と活発に意見交流しようとする姿が見られるようになった。この姿こそ特別活動の新学習指導要領において示される、「集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすること」へとつながる端緒にほかならない。

この2年間の実践において学級担任として実感したことは、朝の会の「プレゼンタイム」を通じてはぐくまれた話し合いの力が、学習活動や生活場面にも大きく反映されるという手応えである。学びの基盤をつくるための貴重な機会である朝の会を、今後も大切に指導していきたいと考える。



「プレゼンタイム」の黒板  
毎日、大切にしたいポイントを黒板に掲示している。

6年次は、年間1人17回以上のプレゼンを行った。下記は、児童に聞いた「今年の自分のベストテーマ」である。

- ・何事も前向きに考えよう
- ・すごい人の影響力
- ・健康に過ごそう～工夫をして健康に～
- ・名前は大切
- ・新型コロナが教えてくれたこと
- ・お野菜クレヨンはすごい
- ・筋トレをしよう！～美しい筋肉を作るために～
- ・歯磨きをしないと大変なことになる